

～偲～

就労継続支援B型事業所 ジャンプを利用されていた門田輝彦さんが本年急逝されました。
門田さんを偲び、親の会の一員でもある親御様より頂いたメッセージを掲載いたします。

ジャンプと息子

ジャンプは「こうよう親の会」のメンバーが、平成6年に卒業生の再就労の為に立ち上げた作業所でした。古い一軒家を借り、数人の子ども達に電気部品の組立作業を教えることから始まりました。新人の私も先輩と一緒に日替わり、手弁当で参加していました。

平成9年公的に認可され、港南作業所ジャンプ誕生！その後、一生懸命お金を貯めて「社会福祉法人こうよう会」を設立。作業所、グループホームは法人運営となりました。

そのジャンプに、14年前息子が入所しました。設立当初と変わらぬ雰囲気です。所員一人ひとりの特徴を把握して、時に厳しく、本当に温かく見守っていただきました。研修バス旅行、スポーツ大会などの行事も、お友達と思い切り楽しみました。ここ数年は病後の為、通常の通所が出来ませんでしたが、息子の心の拠り所でした。

1月25日に、息子は心不全で急逝いたしました。あまりにも突然のことで、今でも信じられない気持ちでおります。私達夫婦が元気なうちに見送ってあげたいなどと思っていましたが、いざ失ってみますと、慈しみ守っていたつもりが、どんなに彼に守られ、癒されていたか…。告別式には、ジャンプのお友達が大勢来てくださり、皆さんからお別れのお声をいただいたほか、所長、職員、ボランティア、保護者の皆様にも見送っていただきました。

本当にお世話になりました、ありがとうございました。今後も所員さん達の為に、温かく素晴らしいジャンプであります様、心から応援しております。



～ジャンプ職員より～

輝彦さんは、野球観戦が大好きで、いつもかっこよく野球帽をかぶって登場、「昨日、ベ이스ターズがね～」と楽しくお話しをして下さいました。

レクリエーション等では、積極的に手をあげ、一たひマイクを持つと、とても素敵なコメントで「すごい！」と思わせて下さる方でした。

お名前の通りいつまでも、ジャンプを明るく照らし続けて下さい。

ご冥福をお祈りいたします。